

## 第2回みやぎ観光振興会議石巻圏域会議 委員発言要旨

### 石巻商工会議所 青木八州会頭

- 当面、家族単位の旅行になるが、さらに細分化して、時間などにゆとりのある子育てが終わった世代をターゲットにすると良い。
- 車のない人や、遠方から新幹線で来ると二次交通が必要。オプションツアーで金華山や鮎川など地域を巡って観光してもらう。
- また、オプションツアーには、スキューバダイビングのライセンス取得や潜水プログラムなど、いろいろなコースがあっても良い。
- 金華山参りで金持ちになれることを関西でPRすれば、格安航空もあり観光客が見込める。仙台空港からこの地域へのバスを整備できないか。
- 本会議のメンバーに旅行業者がいると採算性などの意見をもらえ良いと思う。

### バリュー・ザ・ホテル東松島矢本 阿部聡儀支配人

- ここ1か月で、県内や東北内の修学旅行や教育旅行がどんどん企画され始めた。
- インバウンドについては、来年の旧正月あたりからどうかと話がでている。
- GOTキャンペーン中に、その期間後の仕掛け、新規客かリピーターか、又は、個人か団体をターゲットにするのかなどを、地域で検討しなくてはいけない。
- 前回、食をテーマにとあったが、食材にはシーズンがあり提供できない時期もあるので、対応できる企画やメニューが必要。

### 県タクシー協会 池田憲彦会長

- 観光と体験、食を組み合わせたオプションツアーを沢山つくり、選択の幅を広げる。
- 旅行業者など地元以外の方の意見を聞くべき。石巻地域は素晴らしいという方は多い。
- 若柳出身の有名な脚本家に、地域の魅力再発見などの良い提案をしてもらう。

### みやぎおかみ会 遠藤和子幹事

- 第一線で活躍する方は、年齢が高く、時代に合わせた魅力発信に限界がある。
- 起業支援を手厚くし、ダイビングやシーカヤック、漁師体験などのオプションツアーを整備する。その起業家を地域に受け入れ、人口の増加のほか、地域の魅力発見につなげる。
- 新型感染症のプレッシャーを避け、リフレッシュしながらのワーケーションの場所として牡鹿半島は向いている。

### 石巻料理店組合 大森信治郎組合長

- 適疎の表現を工夫し、観光客へ訴求していく。疎は密との対比なので、松島などの密から疎へなど訴え足を延ばしてもらう。
- 誰に訴求するかといえば、仙台圏、東京圏のほか、格安航空もあり大阪も面白い。
- 以前、食をテーマに大阪からのモニターツアー行った際の評価は非常に高かった。

## 【未定稿】

○島を観光資源と考えると、石巻地域での航路の乗り継ぎ移動できる仕組みも面白い。この周辺は、東京から見て北方面の島々の最初の入口になる。来年、出島の橋が完成することもあり注目が集まる。

### 東松島市観光物産協会 菊田良光会長

- 東松島市では月曜日から金曜日まで、デマンド交通としてタクシーを6台利用している。登録や予約、コースなども大体決まっており、観光への活用は難しい。
- 別な方法となれば主要駅からタクシーを使った周遊観光になる。先日、新聞に三陸鉄道と観光タクシー（31コース）のセットが定額で利用できるプランが掲載されていた。行政にバックアップしてもらい、いらっしゃったお客様にしっかり足を確保しなければならない。
- 体験型の魚釣りとか、シーカヤック、パークゴルフ、パラグライダーなど、密にならない屋外での活動と、2次交通を組み合わせたいと思う。

### (株)街づくりまんぼう 木村仁代表取締役専務執行役員

- 情報発信が大切である。既に素晴らしい観光素材があると思うし、それぞれの分野でいろいろ頑張っている。如何に情報を分かりやすく旅行者へ届けるかが課題である。
- GOTキャンペーンで、専属で人を雇って、SNSを発信するとか、何かあればリアルタイムで対応するコンシェルジェがいれば良いと思う。

### (株)ミヤコーバス石巻営業所 後藤正基所長

- 新型コロナウイルスの影響で、バスは動いていなかった。観光地に観光客が来るようになったが、ほとんど自家用車になっている。
- 離島航路は良いと思うので何らかのPRをすべき。対して、バス等は、今走っているのは乗合バスが中心で、時間やルートが観光に適さない。デマンド交通にしても通勤通学など地域の足であり、改善するか、別なもとして扱うかだ。
- 自家用車利用が増える中、道路の整備が必要である。また、一方通行が多く分かりづらく、また行きたいとは考えない。
- 新型コロナウイルスの状況にあわせ、コロナ渦は自家用車、回復後はバスやタクシーを組み合わせるルートとすると良い。
- 観光客が新型コロナウイルスで構えている。3密ならないようにし、来ても大丈夫という環境づくりが必要と思う。

### 鮎川まちづくり協会 齋藤富嗣代表理事

- 観光の素材は沢山あるが、それを生かす連携ができていない。二次交通や観光の見せ方などの議論や実行をしていかないと、理想論で終わり、実現するまでに時間がかかってしまう。だったらいいので終わらないよう、しっかり話し合わなければならない。
- 金華山をお参りすると金持ちになれ、ほかの島々にも歴史があり、全部回ると大金持ちになれるなど、しっかり魅力を伝えていかなければならない。
- 数日掛けて周遊してもらおうエリアになるよう地域のつながりを検討する仕組みも必要。

【未定稿】

石巻専修大学 庄子真岐教授

- 今、適疎が求められており、石巻とは親和性があると思う。ただ、適疎だと思って来たらそうではなかったとならないよう、適疎の定義を議論する必要がある。
- 適疎に取り組み、客単価も上げ、ビジネスモデルが成立つよう石巻をブランド化していければと思う。

リボンアート・フェスティバル実行委員会 松村豪太事務局長

- 先に、外部の視点を取り入れるとか、オプション的な体験コンテンツなどの意見がありました。仕事柄、移住や起業支援などに関する事業をしており、関われると思った。
- ボランティアから移住した方や、Uターンした方など、優れたコンテンツを持っているが、得てして組織と組みたがらないので、こちらから採算のとれるオプションルツアーとして提案などし、繋がりに行く必要がある。
- オンラインによるコンテンツの作成は簡単であるが、採算をとるのは難しい。地域の魅力発信などPR的な要素が高いので、公的な支援があると良い。
- ワーケーションについてもインターネット設備があれば比較的容易にできる。民宿や学校の空きスペースを利用し、さらに、自然を楽しめる。来年、オリンピック開催中に、企業の皆さんを事務所ごと、宿泊施設などへの誘致を、このタイミングで取り組んではどうか。

貴凜庁（株） 三井紀代子社長

- 先ほど、地元以外の外部の視点を入れるとあったが、私は他県から、全く宮城を知らずに来て、今、ここで仕事をしているが、宮城は自然が、観光地が素晴らしいと思う。
- 皆さんの素晴らしいアイデアやご意見を、シンプルに整理して、情報として届けると良い。

女川町観光協会 持田耕明副会長

- この地域はみちのく潮風トレイルなど、恵まれた地域である。また、地元の人しか行かないような景観が素晴らしい場所など情報発信していきたい。GoToキャンペーンで観光客が増える中、女川町は選ばれる町だと思う。
- コロナ渦で、ハードなどの支援も有り難いが、東日本大震災により人口6300人となり、人力的に不足を感じている。売り子が2～3軒、掛け持ちしている。
- お客様に対し、コンテンツも大事だが、最終的にはサービス、おもてなしをする人が大事。私はこの地域の人に魅力を感じ定住した。この地域の規模なら歩行者優先など、地域で取組む事が可能だと思う。そういう魅力も発信できればと思う。

石巻観光協会 後藤宗徳会長

- 「適疎」を良い言葉に置き換え利用する。オプションルツアーはあるべき。ただ、全てを計画に盛り込むのは難しい。計画に載らなかったものでも、実行する方法を考えてほしい。評論家は多いが、それよりも、プレーヤーに育ててほしい。
- 先の講義資料によると、他県は行っているが宮城県が行っていない対策がある。県にスピード感を持って取り組んでほしい。
- オンラインコンテンツで、食材のほかタクシー券を配り地域を観光してもらう仕組みはどうか。